



森脇 徹 議員

教育課題解決へ、1学級
31人から35人編制の
解消を

課題対応などに教職員の

特別な配置の検討は？

教育委員会の組織をあげて支援します。

問 学校教育で、子どもと教職員を取り巻く様相に大きな変化がある。今後、課題対応などに教職員の特別な配置を検討するののか。

答 教育指導部長

現在、特別支援員やメンタルフレンドを配置しております。他にも、教科指導や指導体制充実のための加配も行っています。さらに指導の困難な児童生徒には、教育相談・課題対応室や少年センターあすくる高島等、教育委員会の組織をあげて支援しております。

問 学校を訪問したが、授業中に教室を飛出し別室にいる等深刻だ。多動性もある。心のケア心理サポートの専門スタッフ増員で、市の体制を充実すべきだ。

答 教育指導部長

スクールソーシャルワーカー等の専門スタッフの必要性と有用性は、十分理解しております。県に対し、配置時間の増加や増員の要望をする予定です。加えて、県・市の福祉部局とも連携して、さらに学校を支援していきます。

問 子ども未来部長

専門的な知識を高める研修への参加や、指導者であるスーパーバイザーの助言指導も受けながら、相談体制の質の向上を図り、対応していきます。

問 県の児童相談員が常駐していないが。

答 子ども未来部長

28年度から大津・高島子ども家庭相談センターが設置され受け持ち区域が分散されたことにより連携が密になりました。そついった中で、相談員が一致団結して対応していきます。

問 児童生徒の課題や教員の多忙化解消等、31人から35人編制をなくす教員配置を。

答 教育指導部長

学級編制は県が定める基準により編制されます。算数や数学、英語等の教科で小学校で七校、中学校で五校に県や市からの加配教員を配置して少人数指導を実施しています。

その他の質問

●「求償問題」は、話し合いによる解決を図れないか



高島市総合教育会議の様子